

---

令和6年 第3回(定例)南部町議会会議録(第4日)

令和6年6月12日(水曜日)

---

議事日程(第4号)

令和6年6月12日 午前9時開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 議事日程の宣告  
日程第3 町政に対する一般質問  
日程第4 請願、陳情委員会付託  
日程第5 上程議案委員会付託
- 

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 議事日程の宣告  
日程第3 町政に対する一般質問  
日程第4 請願、陳情委員会付託  
日程第5 上程議案委員会付託
- 

出席議員(14名)

1番 埜田光雄君	2番 加藤学君
3番 荊尾芳之君	4番 滝山克己君
5番 米澤睦雄君	6番 長束博信君
7番 白川立真君	8番 三鴨義文君
9番 仲田司朗君	10番 板井隆君
11番 細田元教君	12番 亀尾共三君
13番 真壁容子君	14番 景山浩君

---

欠席議員(なし)

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 田 子 勝 利君 書記 ..... 杉 谷 元 宏君

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 ..... 陶 山 清 孝君 教育長 ..... 福 田 範 史君  
病院事業管理者 ..... 足 立 正 久君 総務課長 ..... 田 村 誠君  
総務課課長補佐 ..... 石 谷 麻衣子君 企画政策課長 ..... 松 原 誠君  
デジタル推進課長 ..... 岡 田 光 政君 防災監 ..... 田 中 光 弘君  
税務課長 ..... 三 輪 祐 子君 町民生活課長 ..... 渡 邊 悦 朗君  
子育て支援課長 ..... 芝 田 卓 巳君 教育次長 ..... 岩 田 典 弘君  
総務・学校教育課長 ..... 水 嶋 志都子君 人権・社会教育課長 ..... 二 宮 伸 司君  
病院事務部長 ..... 畑 岡 宏 隆君 健康福祉課長 ..... 前 田 かおり君  
福祉事務所長 ..... 泉 潤 哉君 建設課長 ..... 岩 田 政 幸君  
産業課長 ..... 藤 原 宰君

---

午前 9 時 0 0 分開議

○議長（景山 浩君） これより会議を始めます。

ただいまの出席議員数は 14 人です。地方自治法第 113 条の規定による定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

---

日程第 1 会議録署名議員の指名

○議長（景山 浩君） 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 125 条の規定により、次の 2 人を指名いたします。

9 番、仲田司朗君、10 番、板井隆君。

---

日程第 2 議事日程の宣告

○議長（景山 浩君） 日程第 2、議事日程の宣告を行います。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

---

### 日程第3 町政に対する一般質問

○議長（景山 浩君） 日程第3、昨日に引き続き、町政に対する一般質問を行います。

順序は通告の順とし、順次質問を許します。

初めに、11番、細田元教君の質問を許します。

11番、細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 皆さん、おはようございます。

今日、朝一番なんてするのは、久しぶりでございます。最後の一般質問をさせていただきます。通告にありますように、2点でございます。

2040年及び2050年問題の対応と、二酸化炭素排出実質ゼロ推進事業の2点でございますが、2040年問題は3月議会にも言いました。これは皆さんの御存じのように、民間の研究機関が人口減の勢いが止まらないと、このままでは消滅可能性が起こる都市が発生すると、今年の2月頃報道がありました。我が町も同じようになると思い、この対策をせないけんでないかという話で、まず、これは子育てを中心にして、若者が元気になるように一般質問したつもりでした。特に我が町の南部町では、子育て支援が充実しております。これをさらなる拡充をしていただき、頑張ってもらわんとおかしんならへんかという話でした中で、確かに町長の同僚議員の答弁の中にも、20代から25歳までは少ないけども、25から35ぐらいは増加していると。それは子育て世帯が、若いお父さん、お母さん方が南部町は生活しやすいと、子育てしやすいというのが浸透しておりまして、こういう結果が出たもんだと思っております。

こういうことで、この2040年問題を我が町は乗り越えようではないかということで、3月議会は一般質問いたしまして、その中で、我が町には他町にない教育の日条例がございまして、一月間、教育の日がございまして。その日に合わせて、子育ての方やちを子供ど真ん中の政策をしていただきたいということを3月議会に申し上げました。町長は検討すると言っておられました。それを今年の秋には楽しみにしているところでございます。

今回の質問は、ハッピーだなしに、ネガティブなところがございまして、皆さん方も御存じのように、安芸高田市の石丸市長が議会との、いつもトラブルじゃないですけど、活発な意見交換しておられましたように、将来を見据えたこういう政策、2040年、50年問題、インフラの問題、それを考えればすごい大事なことであり、住民負担も厳しい。同僚議員も町長答弁によって、住民の負担が増えるって言われたと、問題だって言われましたが、こうならないためにも、そういう今からできることをやらにゃいけん時期が来てると思ひまして、以下、5点の質問をさ

せていただきました。

第1項目ですが、これに伴いまして、国の政策、県の制度、いろいろありますけども、本町独自でもそのようなことが一つでもできる政策制度をつくらなければいけないじゃないかと思って、要はローカルメニューなんですけども、他町にない、県が言っている、国が言っていることを活用しながらできる政策はないのかということを一ポイントを問いたいと思います。

そうすれば、どうしても町民の生活への影響が想定されます。これはどのようなことを今、想定されておられるのか、それに対する対応も私は必要じゃないかなと思っております。もちろん町長もこの件はどうも感じておられるようでして、昨日、おとといの同僚議員の一般質問の中でも、その端々が見えました。

3番目には、それに対する対応を今からせないけんじゃないかなと思っております。私の知合いに内閣官房の事務局長みたいな偉い方がございまして、その人から年賀状が参りました。この問題で、これから地方の時代である、地方の皆さん方の意識改革が必要である、頼むよのような年賀状が参りました。これは、町長も恐らく御存じじゃないかなと思っております。

一番問題なのが4番目の項目です。昨日、おとといの同僚議員の一般質問の中で、消滅自治体、要は限界集落と言われるけども、集落はなくなると。そこには必ず生活している人がおると。それをどのようにされるのかっていうのが、一番問題なのは、上下水道の問題なんです。それと、昨日の同僚議員が言われた公共施設、もっと造れとか、改修しろとか、いろいろ言われましたが、これがまた大きな問題になってまいります。このグランドデザイン等も必要だと私は思っております。

5番目の問題、人口減少に対する政策を継続し、実現する考えを問うということですが、これらを一生懸命考えれば、今の現町長、陶山町長は、今期限りで辞めるんじゃないしに、次も出て、これらのグランドデザインを描かないけんと思っております。本来ここに、次、町長選に出られるんかなと思って書こうと思ったんです。一般質問は、町政に対する一般事務であると定義がございまして、そういう項目はやめまして、それらの事業を継続するには、もう一度、一肌、二肌脱がなきゃいけないと思ひまして、5番目の問題でございまして、マスコミが来ておりますので、町長、物すごい話をしてあげていただきたいと思っております。

大きな項目の二酸化炭素排出実質ゼロ推進事業でございまして、これ、今年でしたか、国が重点対策加速化事業で採択を受け、物すごいお金、国が予算つけたみたいですね。新規補助事業の創設して、現行補助単価の増額改正、期間を6年間として、重点的に補助事業を実施することになったと。そういうことで、ついこないだの臨時議会にはるるありました。全て100万か200

万以上の事業でございました。それに対しては国が補助しますと、やっていただきたいというメッセージでございますが、それ、できるような町民は全体では何%でしょうね。

本来ならば、町民全体がこの恩恵を受けなければいけない国の重点施策だと私は思いますけど、国自体が、要は金がある人はどんどん使ってねと、金がない人は辛抱せえってということか、そのように勘ぐられたらいけませんので、町独自でもいいでしょうし、いろんな補助事業を使って、これが一番金を食べる家電っていったら、やっぱりエアコン、冷蔵庫、洗濯機等でございます。また、今、電球がLED灯になれば、電気をあまり食べないようになっております。これらにして、今年の夏はまた災害級の熱波が来るって言うておられるという予想でございますが、エルニーニョが減少してラニーニャになったと、ラニーニャになるということは猛暑ということですよ。そういうことで、みんな住民がちょっとしたことでも恩恵を受ける政策を、いろんな国、県の制度を活用しながらこれをやっていただきたいというのが2項目めの第一つなんです。ぜひとも金のある人だけがそういう恩恵を受けることだなしに、私を含めた一般住民がそういうことで少しでも電気を使わない、少しでもええ具合になるような政策を町長、考えていただきたいというのが大きな2番です。

壇上からは以上でございます。明快なる、また、未来に希望の置けるような町長の答弁がされると思ひまして、発言席から次の質問をさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 一般質問3日目になりました。今日は細田議員だけだということでございますので、しっかりと議論をさせていただきたいと思ひます。

まず、細田議員の2040年及び2050年問題の対応についての御質問にお答えをいたします。6月5日に厚生労働省から発表された令和5年の合計特殊出生率は1.20、出生数は72万7,277人と、ともに前年を大きく下回る過去最低となりました。80万人を下回って、75万人を切るじゃないのかという話から、あっという間に72万人台という急激な出生数の低下でございます。これまで平均寿命が延びることによって、人口減少の速度はある程度緩やかに推移してきましたが、平均寿命の伸びも止まったことで、老年人口も減少に転じ、人口減少は今後一層加速していく時代に突入したと言えます。

このような背景の下、2040年には、現在50歳前後の団塊ジュニア世代が高齢者となることによる急激な労働力不足、医療費などの社会保障費の増加が予想され、さらに10年後の2050年には高齢者人口割合は46.6%、生産年齢人口割合の44.2%を超え、現役世代1人が高齢者1人以上を支えなければならない社会がやってまいります。

この大きな課題に立ち向かうために、本町独自の施策についてですが、これからはデジタル技術の活用は欠かすことができず、また、施策を立案するに当たっては、若者の視点が重要であると考えています。現在、役場内では、若手職員を中心としたDX、ワーキングチームを結成する準備を進めています。2040年、2050年の南部町を支える職員たちが所属の枠を超え、一丸となって新たな施策に導いてくれるのではないかと期待をしております。また、地域においても、地域振興協議会などを窓口として、地域の若者を集め、意見を聞き、これを施策に反映させる取組を進めようとしてるところです。

次に、町民生活への影響は何を想定しているのか問うについてお答えをいたします。現在でも労働力不足を理由に、事業が継続できない、営業時間を短くしないといけないなどの声をよくお聞きいたします。2040年に向けては、労働力不足はさらに加速するわけですから、高齢者が病院に通院するための交通手段の確保、町民の生活を支えるスーパーマーケットやガソリンスタンド、診療所等の事業継続の問題がより鮮明になってくることが予想されます。

続いて、3点目の、町民生活への影響に対する施策を問うについてお答えをいたします。

1つ目の質問ですが、若手職員のDX、ワーキングチームの取組を紹介しましたが、デジタル技術を活用し、各種施策をさらに発展させることで、この難局に立ち向かっていきたいと考えています。交通手段の確保の問題に対しましては、事業者側、町民側、双方の声を聞きながら、運行管理システムの改善や乗降場所の増設など、デマンドバス、バクシーを活用した持続可能な公共交通体系の整備にさらに努めてまいります。また、買物環境事業継続の問題に対しましては、たすかカードを活用したキャッシュレス決済を、利用者にとってより便利で、より多くの事業者にお使いいただけるものにしていくことで、町内での消費拡大、事業者の事業継続につなげてまいります。

次に、公共施設についての御質問を頂戴いたしました。特に、町内に点在するいろいろな公共施設、水道、下水道に対する今後の対応を問うの御質問にお答えをいたします。南部町が現在保有する公共施設、これ、建築物ですけれども、これは195棟あり、その内訳は、庁舎などの行政施設9棟、町営住宅69棟、学校教育施設24棟、社会教育施設3棟、文化施設28棟、保健福祉施設10棟、子育て支援施設15棟、産業系施設4棟、スポーツレクリエーション施設系が、この施設が約26棟、供給処理施設が2棟、そしてその他が5棟となっております。また、上下水道インフラとして、上水道関係が管路177キロ、取水施設16か所、配水施設が21か所、下水道関係が管路85キロ、処理場が7か所、中継ポンプは43か所を保有しています。これらの施設の今後の対応についてですが、今後予想される人口減少による収入減、施設の老朽化、燃

料費等の高騰などの影響により、将来的に厳しい財政運営が現在でも予想される中、限られた財源と現在の資源を有効に活用する必要があると考えており、今年度から、公共施設等の在り方について具体的な検討を行う予定としております。

具体的には、まず公共施設、主に建築物についてですが、公共施設等総合管理計画に基づき、令和2年度に策定しました南部町個別施設計画の改定を今年度実施し、各施設の現状を再検討し、施設の老朽度、活用状況などを勘案し、今後の在り方、これは存続、統合、または廃止も含めて、町の方向性を計画に盛り込む方針としております。その後に、計画に定めた方向に沿って必要な措置を講じていく予定としておりますが、存続する施設については、老朽化の修繕等に費用を要することが想定されるため、施設の長寿命化のための修繕をどのように行っていくのか、計画を策定し、進めていく必要がございます。

一方で、統合または廃止とした施設については、地域に根差した施設もありますので、地域住民の方々や利用者の意見を聞きながら、施設の在り方について改めて検討してまいります。上下水道インフラ施設についても同様に、使用料金収入が減少していく一方で、施設維持や更新に係る費用は増加することが見込まれ、事業経営が厳しくなることが現在からも既に想定されています。長期的な視点でコスト削減や効率化を図るため、施設統廃合や規模の縮小化などの検討を行ってまいります。

次に、二酸化炭素排出実質ゼロ事業について御質問を頂戴いたしました。その中で、家電等を対象とする補助を追加する考えを問うという御質問を頂戴したところでございます。

現在、国は2050年のゼロカーボン実現に向けて、加速度的に取組を進めております。本町におきましても、令和2年3月にゼロカーボン宣言を行い、公共施設への再生可能エネルギー設備の設置、各家庭への再エネ、省エネ補助金の交付などを行っているところでございます。このたび、環境省の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、これは重点対策加速化事業と呼んでおりますけれども、この補助対策を受けることとなりました。本事業は、国の地域脱炭素ロードマップ及び地球温暖化対策計画に基づき、地域の脱炭素化、再エネ等の導入を推進するものでございます。

本町におきましても、本補助事業を活用し、令和6年から、2030年になります令和11年度までの6年間を重点対策期間と位置づけ、これまでの一般家庭への再エネ、省エネ補助金を増額することで、再エネ設備等の普及を促進し、ゼロカーボンを達成していきたいと考えております。

さて、家電等を対象とする補助の追加をとのことでございます。家庭から排出される二酸化炭素のうち、約47%が家電製品などで使う電気の使用によるものと言われており、その消費量の

多い順から言えば、冷蔵庫、照明、エアコンなどが、省エネ家電に替えた場合は二酸化炭素の排出量を約11%削減できるとされております。

町としましては、現時点で家電等への補助金は予定しておりませんが、各御家庭の脱炭素化の取組が大きな成果となると認識しております。そこで、より利用してもらいやすい制度として、省エネ改修への支援メニューの検討を進めているところでございます。具体的には、LED照明、二重サッシ、複層ガラス、ペアガラスですね、壁への断熱材挿入などがございます。高断熱、高气密な家は、冬は暖かく、夏は涼しく、快適で健康にも効果があります。そのような省エネ改修をより小さな規模で実施いただけるような支援を検討しているところでございます。

最後に、3期目の出馬について御質問を頂戴いたしました。大変光栄だと思っております。また、3月議会でも荊尾議員からも御質問を頂戴し、その場は熟慮をするという答弁をいたしました。町長の業務は、南部町の現在と未来に関わり、その先頭に立つ仕事でございます。統合保育園事業、フルーツロード事業、先ほど申し上げました脱炭素重点加速化事業などなど、南部町の未来を決める重要案件が緒に就いたばかりです。来る10月の町長選挙に出馬し、町民の皆様の御支持をぜひいただき、全力で南部町の現在と未来に関わり、つなぐ、変える、挑戦する覚悟を持っております。

先人たちが築いた生物多様性が息づく里地里山の文化や環境を次世代に残す、そのためにも、若者が暮らし、子供を産み育て、そして高齢になっても安心して暮らし続けられる南部町の実現に挑戦を続けたいと思っております。大変厳しい現状もありますけれども、町民の皆様と腹の底から笑い合い、話し合える、そんな環境の中でまちづくりを進めていきたいと思っております。

以上、壇上からの答弁といたします。

○議長（景山 浩君） 細田元教君の再質問を許します。

細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） ちょっと速記が間に合わんやったけど、一つ一つお聞きいたします。

まず、最初に言われました本町独自の政策の前に、出生率がすごく下がっておりますね、今言われたように。南部町での出生率というのは、今、具体的には何%ぐらいでしょうね。いや、分かった範囲でいいです。

○議長（景山 浩君） 子育て支援課長、芝田卓巳君。

○子育て支援課長（芝田 卓巳君） 子育て支援課長です。合計特殊出生率ということでお答えいたしますと、最新の令和4年で1.4という数字でございます。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） ありがとうございます。県の出生率が島根県より若干少なかったですね。けども、平均より鳥取県は案外よかったんです。やっぱり県も子育て王国ととっとりと銘打ったぐらいですので、それ以上に子育てに関して支援政策は南部町が充実していると私は認識しておりますし、町長が、あれは同僚議員の質問の中で、20歳から25までは少ないけど、25から35までは多いと言われたのは、この政策、本町が行っている他町にない政策が生きていると私は感じておりますが、町長はどのように感じておられますか。

○議長（景山 浩君） 企画政策課長、松原誠君。

○企画政策課長（松原 誠君） 企画政策課長です。人口減少に対する、他町にはない、本町ならではの取組ということで御質問をいただいております、これに対しての御説明になりますが、本町におきましては、7つの結婚支援、これをパッケージとして打ち出しております。これ、若者や子育て世代などの新生活応援につながる事業になるんですけれども、これが非常に特徴的ではないかなというふうに考えております。この7つの事業なんですけれども、1つには、県のマッチングシステム「えんトリー」を活用しました登録の助成、2つ目に、町内での婚姻、新たな門出をお祝いする結婚記念証の交付、3つ目に、新婚世帯を対象とした町内への引っ越しの支援、4つ目に、新婚世帯を対象としました家賃の補助、5つ目に、3世代同居に向けました新築、増改築への支援、6つ目に、町内に住宅や宅地を取得された方への定住促進の奨励金、7つ目に、東京圏から移住支援を行うというような7つの事業でございます。これをパッケージとして打ち出すことをしておりますことは、非常に効果的であるというふうに考えておまして、これが昨年、令和5年の社会増減になるんですけれども、本町の令和5年の社会増減に関しましては、子育て世代を中心に44名の増につながったということは、一定の成果であったのではないかなというふうに考えております。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 今、町の本当の子育てに対する、るる説明のやつとかいろいろありまして、これらが生かされて、今日そういう社会増になったと認識しておられることはすばらしいことだと思いますし、今後、それをさらに横断的にこれが活用できるように、これはここにおられる方、各課でも全員がこれを共有していただきたい。ということは、例えば若い夫婦、住民が一番最初に相談に来られるのは、町民生活課に住所登録とか戸籍のあれを来られると思います。そんなときに、来なったときにいろいろ聞いて、あなた来なったけど、これは今度は若者のこういう政策がありますよ、新婚さんはこういう政策があります、それを各課に連携していただき

たい、すぐ。ここに南部町のどこどこに家建てますって、三世代同居で、こういうことが町内でどこでもできると。そしたら、こういうことをしたら、例えば家建てたら、二重ガラスにしたら、このようになります。このようにワンストップ・マネジメントですか、そのようにして、各課が連動して連携して、その人をその課に連れて行ってあげて、またその課がまた次の課に連れて行って、あそこ行けじゃないの、あげれば、もっともっとよくなるような気がします。こういう制度がありますからね、だけじゃちょっと面白くない、どっこもやってることだ、それは。そうじゃない、南部町に来たら、そのような人が対象が来たら、担当課はぱっと頭にひらめいて、ああ、こういう制度も使える、この制度も使える、この制度も使える、そこに、その課へ連れて行ってあげる。例えば町民生活課に来たら、これは建設課に私連れて行ってあげますね。建設課でこのことを言ったら、建設課、ああ、こうしてあげたら、今度はこの事業は使えますよって一緒に連れて行ってあげる。ほんなら、道またいじゃったら、今度は健康福祉課に、または社協でもぱっと連れてきてあげる。このようなフットワークの軽いことをしてあげれば、来なかった人が、私はすごく南部町いいなと思われそうですけども、この僕の考えは町長、いかがでしょうか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。そのように私も思います。6月は、ジューンブライド、結婚のシーズンとして適期だと言われておりますが、その中で日曜日に30代の結婚した方がこの庁舎の前で、先ほど出た記念の結婚証明書ですか、それを写真を送っていただきました。南部町を選んでもらえるような町にするためには、さらに私どもが努力せんといけんことがたくさんあると思います。その要素の一つとして、今言われた議員の取組もあるでしょうし、また、もっとほかにもう少しあるかもしれません。それから、議員おっしゃられるように、一番の要点は、問題は、25歳から34歳がいないんです。これは奈義町等と比較した場合に、一番子供を産み育てるターゲットとして、25歳から34歳の男性、女性が南部町内で少ないということが、私どもはここを一番重点課題として、どうすれば南部町を選んでもくれるのか。ところが、35歳を過ぎてから、35歳から40代前半は、この近隣の中では非常に多いです。先ほど四十何人の移住といいますのは、お子様を連れて南部町を選んでもらっている。それをもう少し早く、結婚して、御夫婦で南部町で産み育てたいと、こう選んでもらえるようなまちづくりというのも一つのキーだろうと思っておるところです。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 今、町長が言われたとおりでございます、この少子化対策、若者支援っていうのはうちげでもできる。本来なら、少子化問題、出産、育児、だって今の20歳

から24歳が一番多いとことというのは東京なんです。肝腎な東京が出生率が一番低いんです。これは過去、もうわしらが騒いでもなかなか難しい。国の制度が、これは国が頑張ってもらわないけんことですけど、それに準じて、我が町でも独自の政策というのを、今町長が言われました魅力のある、要は若い人やちが来たっていうのは人口移動なんですよ。米子や他町に暮らすよりも、子供と一緒に南部町に来たほうが生活しやすいから、いろんな今、7つの制度を言われた、それを活用したら南部町が来やすいと、人口が増えたわけじゃない。よそからうちへ移動しただけでして、これはどっこも問題になっています。だから、今年の3月の県の予算で他町の予算見ても、子育て支援にすごい力入れた予算がついてました。南部町はその前からやってましたので、それで来られたと思いますけど、これを人口移動してもいいから、うちげに来たんですよ。それをもうちちょっと若いもんがって言いなっただけど、働くところはほとんど米子ですので、それらを活用したことをやれば、何かあるんじゃないかと思いますが、それをローカルメニューと言いますが、たまたま我が町には、新しい県からそういう仕事をされた方が南部町に来ておられます。それらを活用してやられたほうが面白いんじゃないかと思いますが、何か、県の仕事をしておられて、米子市で住居して、南部町に来られたとき、あっ、南部町って、これは面白いなっていうことが感じられたことがあれば、町長を通じてちょっと聞いておきたいと思いますが。

○議長（景山 浩君） 企画政策課長、松原誠君。

○企画政策課長（松原 誠君） 企画政策課長です。すみません、恐らく私のことを言っていたと思いますので、すみません、ちょっと私から御説明をさせていただければと思いますけれども、3月まで県のほうにおりまして、こちらの職場では、例えば人口減少対策に結びつく事業としまして、バーチャル空間での人と人との交流を実現させるようなシステムづくり、こういったものに携わってきたところでございます。これらの経験を生かして、南部町での取組をこれから考えていかないといけないなと思っているところなんですけれども、現在まだ町民の皆様との話合いが十分でないということもあるのでしょうかけれども、まだ皆様のニーズがどの辺にあるのかというのがちょっとつかみ切れておりません。これから町内の若者の皆さん、それから他の市町村の取組なども参考にさせていただいて、また、新たに何かを、システムを開発するというような場合には、近隣の市町村さんと連携をさせていただいたりして、デジタル技術を活用した人口減少社会対策に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） ということで、初めて企画課長の所信表明をお聞きさせていただきました。その中で、町長はさきの答弁の中で、デジタル関係で若者の視点でDX、ワークチー

ムですか、立ち上げた。これはすごいいいことだと思いますが、ただ、若者の意見を入れて、そのことをされる、今、実際動いておりますでしょうか、それともどうなってますか、ちょっとその進行状況を教えてください。

○議長（景山 浩君） デジタル推進課長、岡田光政君。

○デジタル推進課長（岡田 光政君） デジタル推進課長です。今、細田議員のほうからありましたDX関係のワーキングチームということで、役場の職員の若手職員のほうを中心にメンバー構成しまして、明日に第1回の会議を開くようにしております。以上です。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 明日から動くんですね。このね、DXはね、隣の米子市がDX部門をつくられました。これをどこに特化されたかと、医療DX、医療を中心としたまちづくりとか、DXでどうもやっておられるようでして、僕も国にお聞きしましたら、医療DXですので、医政局でした。厚労省の医政局の中の別枠で、各課からよりすぐった人が来て医療DXをやっていると。その情報を基にして、米子市は西部圏域全体を考えたことを今行っております。デジタル課を一番最初つくったのは我が町なんです。これをもっと生かされたことを、生かすことを希望いたします。わしらみたいに、もう70歳やら何だ、ちょっと頭が固まっちゃいますけども、若い人は案外面白いかもしれん。私ですら、テレビが故障した、スマホが故障したら、中学生を呼びますもん、うちの孫を。そしたら、ぼんぼんぼんぼんってやってって、はい、なんていう、そのような感性を持っております。これを活用したまちづくりというのは、今後大事になってくると思いますので、よろしく願います。

あと、町長、一番今後問題になるのは、この人口減少の中で、町長は同僚議員の中では、地域、消滅都市じゃなしに、部落がなくなると、人が必ずおると、また都会から戻ってきたりして、その地域はなくなる、けども人口は減ると。インフラなんですよ。今町長が言われました上下水道、上水、公共、公共施設は後で言います。上水道、下水道、公共、今の水道関係、これを町長はどのようにしたいと。だって、収入を、公営企業ですが、全適ですが。入りをもっていずるを制すっていうことを可能だろうかと、これに対するビジョンを、どのようなことを今考えておられるのかだけ、今後考え、ちょっと難しいかもしれませんが、考えるというのは別として、自分はこのように思っておられるということだけ教えていただけますか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。水道にしても、医療にしても、これがなくなればこの地域の中で暮らせない。しかし、これまでのこの3日間の議論の中でもあったように、そこに

人が全くいなくなるということは私はないと思っています。現実にはそういう研究を見ると、ああ、そうだなという具合に思います。最後には、そこで生まれ育った人たちが中に帰ってきながら、他所に住民票を置きながらそこで暮らす、いわゆる住民税を払わないわけです。しかし、その環境の中で2か所居住だとか、夏の過ごしやすきときはそこで過ごすとか、そういう環境を選ばれる方がますます増えてくるだろうなと思っています。もちろんそれも大事なことで、先ほどから出ているように、地域の中で関係人口を増やすということが移住につながる一番要点だと思っています。そういう中で、若い視点で議論をいただきたいのは、例えばバーチャルの空間の中で、電子認証された住民登録といったことができないかどうか。その中で、全国で南部町の応援団であったり、出身した人と南部町の若者や高齢者がつながるような手法がないだろうか。もちろんJICA等で、毎年20名を超える人たちが海外で後進国の支援を行っています。そういう人たちと社会とつながるような方法はないだろうか。

そういうようなことをしながら、南部町の中で世界とつながり合いながら、その集落の可能性を探ったりといったことが、これからは地域の中で大事なことになるだろうと思っています。日本の中では不可能であっても、世界の中では必要とされるような項目がたくさんあるだろうと私は思っています。そういう中で、そんな関係人口の中から南部町の大きな力になってくれるような人材が、南部町にまた来てくれるような可能性も考えていかなければならないと思っています。

さて、その水道の問題ですけれども、これは深刻な問題だろうと思っています。水道についても、下水道につきましても、その定数といいますのは、今まで人口で計算をしてきてます。この定数に変数となって減少になっていけば、採算はきっと合わない、分岐点を超えてしまうだろうと思っています。その際に、ただただ努力をしなければ、値上げをとということも当然出てくると思っています。しかし、値上げというものを恐れてそのまま投げおけば、どうなるかといえば、次の世代の人たちがその中で苦しむことになるといったことは当然のことだろうと思っています。水道の減価償却は40年以上という非常に長いスパンで見えています。ですから、1回設置したものについて、その費用を負担するのは40年後の人たちも負担をするという前提で造ってるわけです。したがって、人口減少社会の中で、値上げということを恐れずに議論しながら、値上げありきではなくて、何とかやり切れることはないだろうかといったことも想定しながら、定数である人口というものをどう維持していくのかということも必要でしょう。あらゆる知見を集めながら、今までは不可能だったことを可能にするような方法も含めながら、さらなる行政改革をしていかなくちゃいけないと思っています。今、配水池等も光ファイバーを設置しておりますけれども、

光ファイバーよりも携帯電話等を使いながらしたほうが経費が安くなるのではないとか、現実にそういういろいろな方法を使いながら、今、中央集中管理システムというものが更新時期、また迎えています。これも多分億を超えるような仕掛けだと思っています。ここにおられる議員の皆さんの中にも、その導入に当たって御尽力いただいた皆さんもおられると思いますけれども、これについても、じゃあ、どうするのかといったことも真剣に考えながら、いかにコストを落とし、そして将来の負担につなげない、そういったことを考えていきたいと思っています。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 本当に今のお話聞いても深刻で、私の頭の中でもちょっと整理つかんですけども、これは町長、今、もう自分が先頭に立ってこの次もやると言われたからには、これは引っかかってくる問題でございまして、今からでも住民の意識改革とか、振興区と話し合っていて、どのようにしてこれを守る、要は維持費がかかるんですね、いろいろと。それで、同僚議員からもコンパクトシティというような話もございましたが、人口を増やして、家も増やして、明るい未来もつくらなきゃいけない。だから今後、宅地造成は難しい、宅地造成でもいいし、家を建てるならば、この環境インフラが可能なところに建てていただくように集約する。例えば、丸合周辺、法勝寺庁舎周辺、天萬庁舎周辺に、できたら建ててえやと。これから奥建ててもらうとこのインフラがえらいのでっていうやあにして、この周りに家を建ててもらって、できるような環境にするのも一つの方法じゃないかなと思うんですけども、これは今後の町長の政治手腕にかかろうと思いますが、俺みたいな考えは、町長、やっぱりおかしいでしょうかね、わしの考えと町長の気持ち、ちょっとこの辺で一致させたいんだけども、お願いいたします。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。結論から言うと、今のままでは厳しいと思います。この議会の中でも、山村振興法が期限が切れます。過疎振興が昨年変わって、半分以上の市町村が過疎になったということも報道されました。事が変われば、国の制度、システムも変える必要があると思っています。脱炭素の話も出てきましたけれども、山村が持つ地球温暖化に対する影響力の大きさであったり、森林の持つ多様な価値観というものに対して、森林環境税はできましたけども、まだまだ私は不十分だと思っています。

先ほど議員がおっしゃったようなコンパクトシティという考え方も確かに重要です。要点集めて、その中で下水道や住宅や医療を集約する。しかし、先ほど私が、これは想定ですけども、例えば人口が幾ら減ったところで、自分の思いを持った地域に、例えば米子市に住んでいても、週末にそこで暮らしたいという人はきっとこれからもおられると思います。そして、集落には必

ず人が残ると思います、これは数十年の間はそうなるでしょう。そうすれば、水道を止めることはできませんし、道路インフラを止めて、ここから先は住むなといったこともできません。もちろん農業をやっていたり、山に入って管理をいただいたり、そういう機能も片方では可能性として期待したいとは思いますが、インフラ整備というものを怠ってはならないといったほうの、支出のほうが当然大きくなるわけですし、そういうグランドデザインを日本全国に当てはめれば、たくさんの場所が該当すると思っています。

国土交通省が2010年代に出した統計では、19%の集落ですね、全国の19%の集落が消滅するんだと、これ、消えてなくなる。高齢化だとかそういうので消えてなくなると言っていますけれども、実際その動きを見ますと、そんなに大きなスピードでなくなっているわけではないけど、間違いなくそこに住んでいるわけですし、コンパクトシティーにしようとしても、そこに水や道路や電気、インフラは供給し続ける必要が行政の責任としてあると思っています。その責任に対して、やはり国として、全体的なバランスを考えながら特別の支援は当然私はしていかなければ、これは地方が崩壊することによって、日本全体の崩壊に及んでいく、このように思っています。

ですから、小さな南部町だけの問題でこのことを解決することは極めて厳しいですけども、日本全体のグランドデザインとして考えていく必要がある重大な問題だろうと思っています。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 上水道はその辺にして、ちょっとこれは物すごい厳しい問題が起きようと思います。だから町長、来期出ても4年間、なかなかこれも解決できにくい、国と連動してやらないけん感じもするかもしれませんが、あと、もう一つは公共施設の問題、全部で195棟あると言われました。これの統廃合というのが、また大きな住民との関係が厳しい問題でございます。これに対する、町長、次の4年間に少しでも道筋を立てられないいけない、グランドデザインが必要だと思いますし、建てるならば、建てるっていうのは無理かもしれん。あるものを活用して、昨日の同僚議員が言われました、あそこへ建ててほしい、これも欲しい、ああも欲しいっていうのありましたけども、それは住民の声ですので、それらをするなら、あるものを活用しながらそれができるっていうのは、今のうちにせないけんし、それらも込めた統廃合もせないけんと思いますが、これは次の町長の任期のときでも、道筋は立てていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。それが一番大きな仕事だろうと思っています。人口が減少す

るステージというのは、誰も喜ばないですけども、これまで先人たちがいろいろな思いの中で造った建物や施設がございます。ライフラインについては、また別次元だと思いますけれども、この施設や建物を統廃合、統合するだとか修繕して残すだとか、思い切ってこれはやめようといったことは、これは行政が一方的に決めることではありませんので、しっかりと地域に膝を交えながら、そして苦虫をかみ潰したような顔で議論してても、前に私は進まないと思います。

やはり一方では、夢を語りながら、笑いながら、しかしこれはやめなければ、次の社会に大きな負担を残すぞといったものは、これは各御家庭でも同じだと思います。家がこれから先々壊すのか、縮小するのか、改修するのかといったところは、全ての御家庭で深刻な問題だと思ってます。これを苦虫をかみ潰したような話をしててもいけないわけですし、未来に希望をかけたり、いや、思い切って、これはやはりやめようといったこともグランドデザインの一つだというふうに思っていますので、ぜひ前向きに考えながら、地域の皆様と話し合う、簡単な結論は出ないものでも、じっくりと皆さんと話し合う中で結論を導き出すような手法が必要だろうと思っています。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） これは私も一番厳しいし、そうだと思います。こんなユーチューブで見えておりますと、安芸高田市の石丸市長が、議会といつもけんかしたかったのはそういうところですよ。商工会の補助金を切ったから始まって、いろいろあった中で、そういうことも起きてくると思います。けども、これは住民の声も聞くと同時に、議会との話し合いもしていただきたい、これをぜひともお願いしたいと思っています。

次は、家電の問題なんです。町長、今、答弁の中で、この中見ましても、臨時議会の中で見ました中でも、太陽光システム屋根つき、家庭用燃料電池、太陽熱、まきストーブ、家庭用蓄電池、電気自動車、省エネ設備に関わるだねえかなと思うんだけど、ただ、全部何百万単位なんです、これをしようと思えば。その中で何ぼ補助率を上げたって、やれる人は限られています。

そこで、町長も認識しておられましたね。省エネ家電のLED、また、二重サッシ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、洗濯機も省エネにしたら、うちげの水道料が減ったんですよ、使用率が、そんだけ影響があるんです。それに対する一般住民が恩恵できるようなことを考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。先ほども壇上で申し上げましたとおり、重要な問題と思っています。例えば、個人の全ての皆さんのお住まいの中でも、古いお宅の中では耐震補強の問題で

あったり、それから、冬場に息が白くなるようなところで果たして暮らすってということは、健康にもよくないということ是被われています。こういったところをどうやって大きなお金をかけずに、今、県がやっています、環境に優しくて、健康によい住宅の制度であったり、それから、町が今推し進めてます脱炭素の問題の制度であったり、これがなかなか分かりにくいところがあると思うんです。これを一体にしながら、災害に備えて、そして冬も暖かくて、夏は涼しい、さらに電気代もかからない、そういったものをするためには、どんな方法があるのかといったことを行政職員がしっかりと勉強しながら、国、県、市町村の制度、そして南部町の制度をさらに一歩進めながら、南部町の中で全国で最先端の環境政策をしていきたいと、こう思っているところで

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） そのように、答弁では一般家庭で47%、こういうこと、だけど一番いいのは、もちろん期間が6年間超える事業があるんですね。この6年間のうちに、取れるもんはどんどん取るんですよ、国の政策ですので。その中で一般家庭に係る問題は、アンテナを張ってでもぜひともして、これを例えばLEDとか、ペアガラスとか、省エネ家電したら、町長は11%下がるって言った、大きいだ、これ。その分家庭にも恩恵があると思いますので、これはぜひとも検討していただきたいと思います。

それと最後、町長、来期も未来の事業をするために先頭に立ってやる、強い決意、発表されました。その中で、3月議会にも私言いました、子供ど真ん中社会を今年を3月議会でして、11月、教育の日にする、教育の日は教育委員会がするって言ってます。そこに子供ど真ん中社会を入れてよねって、僕は3月議会に言ったら検討するって言われましたが、行政言葉の検討はしないというふうに取りられますが、この検討はまともな検討と取ってよろしいでしょうか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。まともに取りいただいていいと思います。

私の頭にありますのは、昨年秋にいこい荘でこどもフェスタをやられました。あまり大人の方は来られませんでしたけど、大人というか、言ってみれば子供ですんで、若い世代がこんなにいるのかというほど、子供たちや若い世代がたくさん来ておられました。特にその中で、海外から南部町に勤めに、働きに来てる、こういう方が中で販売係をやったり、ボランティアを一緒にやったり、こういう姿に私は一種の感動しました。子供たちもきっと驚いたと思います。そういう今まで私たちが気づかなかったようなところに、新たな視点で、新たな取組ということ、まだまだたくさんあると思います。ぜひそんな取組を町民の皆さんと力を合わせながらやっていけたら

いいなと思っています。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） それと、もう一つ、1点か2点、町長にお願いしたいと思いますが、町長、私も25年間、今もう4年半、5年ですね、議員させていただきまして、いろんな職員さんとも交流させていただいたし、勉強させていただきました。今ここにおられる課長さん方、すごく優秀な方でして、企画立案、事業を一生懸命やっておられます。それらの人に対して、あとは町長の男気みたいなもんですけど、分かった、思い切りやれ、俺が後、責任取るからやってみろという一声が私欲しいんですけど、その勇気というのを次、町長になったときもしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（景山 浩君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。おっしゃるとおりだと思います。私も常々思っていることは2点あります。一つは、巧遅拙速を恐れない、いや、巧遅拙速を推奨する、いわゆる雑でもいいからたたき台を出してほしい。それから、朝令暮改を恐れない、朝令暮改を恐れないというのは、朝令暮改が日本の錦の御旗のようになってますけれども、このような情報が物すごいスピードで出ている時代に、馬で情報を伝えてた時代と同じことを考えててもいけません。朝、町長が言ったことを夕方変えることもあり得る。そのようなことを恐れないといったことが必要だろうと思ってます。もちろんこれは各職場の中でも、その対応をスピーディーに、そして住民のために何が必要なのかといったこと、これが大事だと思ってます。そして、何よりも現場に出ることだと思っています。住民の皆さんの思いであったり、望んでおられたり、そしてその生活の実態ということを、このコロナの間でなかなかできなかったこともたくさんあると思います。よく言いますように、コロナの4年間で皆さんの年齢は4歳年を取りました。もちろんたくさんのお子さんがこの南部町で生まれて、育っていることも事実ですけども、皆さんが4歳年を取られた、その中で生活実態がどうなっているのか、そして、今の政策がどこにあるのか、その辺りのところをもう一度再点検しながら、これからの未来の政策を考えていく必要があると、このように思っています。

○議長（景山 浩君） 細田元教君。

○議員（11番 細田 元教君） 私は町長に、最後、1点だけお願いいたして一般質問をやめたいと思います。

それは、過去の偉人が言われた言葉です。町長も知っておられると思います。各課長も知っておられると思います。まず、自分がやってみせて、言って聞かせて、褒めてやらなければ、人は

動かぬということを名言に書かれた方がおられます。ぜひ今度の4年間、長となられるときに、選挙せにゃいけんですけど、こういうことを肝に銘じて、町長自らやってみて、言って聞かせて、褒めてやらなければ人は動かぬ、こういう精神で今後の南部町政をしていただきたいことを念頭に置きまして、一般質問を終わります。

○議長（景山 浩君） 以上で、11番、細田元教君の質問を終わります。（「議長、質問があります」と呼ぶ者あり）

---

○議長（景山 浩君） 休憩します。

午前10時05分休憩

午前10時14分再開

○議長（景山 浩君） 会議を再開します。

町長より、議案の訂正について請求がありました。

お諮りします。この請求による説明を求めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 御異議なしと認めます。

それでは、町長から議案の訂正について説明を求めます。

総務課長、田村誠君。

○総務課長（田村 誠君） 総務課長です。このたび、令和6年第3回の南部町議会定例会議案について、条例の題名で抜け落ちていた部分がありました。今回正誤表を配らせていただきました。ページについては、目次及び1ページ、訂正箇所については、議案の第45号の条例の題名でございます。誤りの部分としては、南部町地域活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例という表記になっておりましたけども、正しくは、南部町地域活力向上地域における固定資産税の「課税免除及び」というものが抜け落ちていたものでございます。不均一課税に関する条例ということでございますので、以上、説明とさせていただきます、対応についてよろしく願いいたします。以上です。

○議長（景山 浩君） 説明がありました。質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 質疑なしと認めます。

お諮りします。説明のあった議案の訂正について、これを許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 御異議なしと認めます。町長から請求のあった議案の訂正について、先ほど説明のあったとおり許可することに決しました。

---

#### 日程第4 請願、陳情委員会付託

○議長（景山 浩君） 日程第4、請願、陳情委員会付託を行います。

議会運営委員会までに受理した請願、陳情は、お手元に配付の請願・陳情文書表のとおりであります。

お諮りいたします。お手元に配付の請願・陳情文書表のとおり、審査を付託することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 御異議なしと認めます。よって、配付の請願・陳情文書表のとおり、付託されました。

---

#### 日程第5 上程議案委員会付託

○議長（景山 浩君） 日程第5、上程議案委員会付託を行います。

お諮りいたします。上程議案につきましては、会議規則第39条の規定により、お手元に配付しております議案付託表のとおり、予算決算常任委員会へ付託したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 御異議なしと認めます。よって、以上の議案につきましては、予算決算常任委員会に付託いたします。

---

○議長（景山 浩君） 以上をもちまして、本日の日程の全部を終了いたしました。

これをもって本日の会を閉じたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（景山 浩君） 御異議なしと認めます。よって、本日の会議はこれをもって散会といたします。

本日からは常任委員会を持っていただき、付託案件についての御審議をお願いいたします。お疲れさまでした。

午前10時16分散会

---